（令和５年度霧島ジオパーク学術研究支援補助金交付事業）

霧島ジオパークのワーケーション推進に関する研究

城本高輝

研究のキーワード：霧島ジオパーク、少子高齢化、ワーケーション、関係人口

１　研究目的

地方部において人口減少問題が深刻になっている。人口減少問題は短期的に改善することが困難であるため、関係人口創出の取り組みが全国で見られるようになった。本研究の目的は、霧島ジオパークにおける関係人口などの学術的研究をとおして、人口減少社会と共存する霧島ジオパークの将来の社会デザインに寄与することである。

２　研究内容

本研究は、霧島ジオパーク内に位置する宮崎県小林市へのＩターン、Ｕターンから、まちづくりに取り組むようになった関係案内人に焦点をあて、現地調査およびヒアリングを実施した。また、関係人口の関わりしろなどについて検討を行った。

３　研究スケジュール

７月　文献調査、オンライン会議

８月　現地調査（テレワーク施設、宿泊施設の訪問）

９月　中間とりまとめ

10 月　第 19 回長崎国際大学国際観光学会にて中間発表

11-2 月　ヒアリング・調査内容とりまとめ、プレゼンテーション資料の整理

３月　令和５年度霧島ジオパーク学術研究発表会

４　調査箇所

インターネットの移住スカウトサービス「smout」において、小林市の関係案内人と接点を得ることができた。今回の調査は、下記の３施設において実施した。

（１）すきむらんど　（レジャー施設）

（２）Bar & Guesthouse LOOP（コワーキンスペースなど）

（３）HALO ホテル小林　（宿泊施設）

図１　すきむらんど

図２　HALO ホテル小林

今回の研究活動をワーケーションと捉えた場合、小林市での（A）関係案内所、(B) 関係案内人、(C) 関係人口の関わりしろは、以下のとおりであった。

（A）関係案内所・・・すきむらんど　（レジャー施設)、Bar & Guesthouse LOOP、HALO ホテル小林 、霧島ジオパーク事務局、コワーキングスペース（TENAMU 交流スペース、TENOSSE)

（B）関係案内人・・・上記施設または組織の管理者・職員

（C）関係人口の関わりしろ・・・空き家の活用、IT 人材の確保、地元産品の活用

小林市だけでも、これだけのポテンシャルがあるので、霧島ジオパーク全体で見るとさらに大きなポテンシャルがあると推察される。

５　結果と考察

関係案内人は以下のプロセスをとおして地域に定着していることを確認した。

（１）地域への移住のきっかけ

最初から地域に貢献したいと考えているわけではなく、まずは自分自身や自分の家族が、よく生きることが、移住のきっかけになっている。

（２）地域への定着

移住後に、自律的に地域課題解決に関わることができていることが、地域への定着の大きな要因となっている。地域課題はマイナス要素だけでなく、プラス要素にもなりうる。

（３）地域への定着後の活動

地域に定着後、自律的に移住者が関係案内人となり、外部の人に対し情報を発信し、交流場所を提供することで、関係人口の関わりしろを作り出している。「smout」での情報発信も事例の一つで、オンラインでの交流場所にもなっている。

ご提案

霧島ジオパークをワーケーションの聖地にしていただきたいです。すでに、条件は整っています。

謝辞

本研究は、霧島ジオパーク学術研究支援補助金を活用し、実施しました。関係者に深く感謝申し上げます。

注釈

(A) 総務省は、関係案内所について、地域のイベント情報などが集まり、地域の方々や地域外の方々が気軽に出会い、交流できるスポットと説明している。関係人口の関わりしろに遭遇したり、関係案内人に接点を持つ場所。

(B) 関係案内人とは、地方公共団体が行う都市部での地域 PR や地域とのマッチング、都市住民等と地域住民が現地で交流する場の構築などの役割を担う人材のことを指すが、明確な定義はない。

(C) 国土交通省は、関係人口の関わりしろについて、関係人口が地域で取り組むことができる（地域と関わるきっかけとなる)「余白」のようなものと説明している。関わりしろのイメージとしては、地域と関係人口がお互いの弱いモノを交換するような視点が重要で、地域側が棚卸した課題、交流を通じて見出された課題の 2 つのパターンに区分できると説明している。